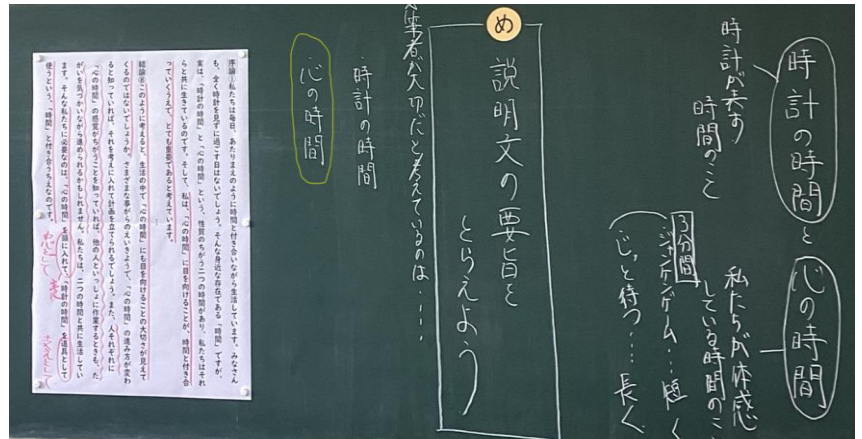


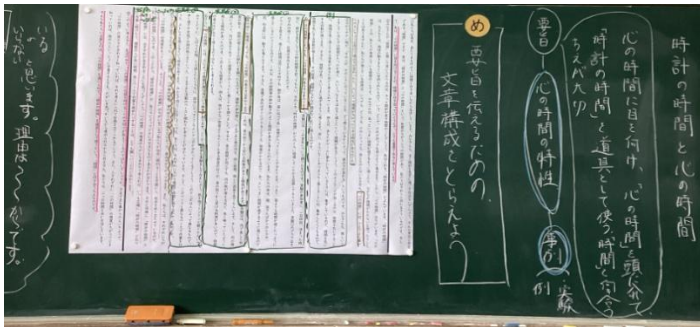
6年 説明文：「時計の時間」と「心の時間」～「習得編」～

まず、「時計の時間」と「心の時間」を体験する活動に取り組みました。「心の時間」がさまざまな影響を受けて、人によって進み方が違うことを実感することができました。

次に、説明文の要旨をとらえる活動に取り組みました。序論部分と結論部分のみを提示し、筆者が「時計の時間」と「心の時間」のどちらをより重要と考えているのか、文章中の言葉をもとに考えました。最後の一文にこだわって話し合う姿が印象的です。



さらに、本論に書かれていることを整理し、文章の構成を確かめる活動に取り組みました。本論のまとまりをとらえる際は、筆者が提示している事例がどのような心の時間の特性を説明するためのものなのかを意識しました。そうすることで筆者の主張が書かれている序論・本論部分と事例の書かれている本論部分との関わりを意識しながら考えることができました。特に7段落は、本論部分のまとめと結論へのつながりが書かれており、大切な段落だと気づくことができました。



(ふり返り)・例や実験は筆者の伝えたい主張をわかりやすくするためのものだとなった。

・伝えたいことは前にあり、それについての事例・実験がうしろにあるという文章のつくりがわかった

・7段落にはこれまでのまとめと、要旨につながる内容(時計の時間、心の時間どちらも大切)が書かれている。

本校ではここまでを「習得」場面として位置づけました。「習得」場面では『何が』『どのように』書かれているのかを読み取りました。次回は「活用」場面についてお知らせします。

6年 説明文：「時計の時間 と 心の時間」～「活用編」～

筆者が挙げている事例の中で、一番納得できる事例はどれかを考えました。子どもたちの中で一番納得感があったのはBの事例です。では、人気のない事例は必要ないかな？とさらに考えることで、「どの立場の人にも納得してもらえるように」という書き手の立場に立って考えることができました。

(ふり返り) まず、いろいろな事例を用意することが大切。たとえある一つの事例に納得する人が少ないとしても、たった一人の意見を聞いて周りの人が納得してくれるかもしれないので、この事例四つはこの説明文にとってかかせないものです。



最後に、筆者に手紙を書く活動に取り組みました。手紙を書く際は条件を指定して書きました。

- (条件①) 「はじめ」－「中」－「おわり」に分けて書く
- (条件②) 双括型で書く
- (条件③) 「中」には事例を書く

終わり	中	はじめ
今回の文章を読んで、僕は「心の時間にも目を向けて、心の時間を頭に入れながら時計の時間を道具として使う」というあなたの考えにとっても納得しました。これからは、周りの人たちの心の時間を把握して、その時計の時間でサポートしてうまく時間を使っていきたいと思いました。この話でいろいろなことに気づけました。ありがとございました。	僕は、あなたの文章を読んで、心の時間はその状況によって感じ方が変わるということがわかりました。それは人と同じわけではないということがわかりました。なぜかという、ぼくは、楽しいこと、例えば遊んでいるときやゲームをしているとき、どうしても夢中になり、つい時計を見ることが減ることが結構あります。すると、時計を見ればもうこんなに時間がたっているのかと感じる時もあります。しかし、あまり楽しいくないことをしていると、短時間にたくさん時計を見てしまい、まだこんな時間しかたっていないのかと感じた経験があります。また、自分が楽しいと思うことが相手には楽しくないということや、自分が楽しくないことが相手にとっては楽しいことだったという話がありました。なので、その心の時間というのは、人それぞれだということがわかりました。	あなたの文を読んで、わたしは「心の時間にも目を向けて、心の時間を頭に入れながら時計の時間を道具として使う」という考えにとっても納得しました。

終わり	中	はじめ
あなたの文章を読んで、私は「心の時間にも目を向けて、心の時間を頭に入れながら、時計の時間を道具として使う」という考えに納得しました。これからは、時計の時間と、自分の心の時間だけを考えるのではなく、相手の心の時間も頭に入れて、お互いに気づかっていることを思います。	私も、心の時間を頭に入れて、時計の時間を道具として使うと、たくさんメリットがあると思ったからです。心の時間の感じ方は人それぞれ違うから、相手も心の時間も気にすることができて、お互い、相手のことを気遣うことができると思ったからです。以前、公園で遊んでいるとき、少し退屈な時間がありました。その時、友達は、「こんなに退屈な時間が長く続くし辛い。帰るね。」という、帰ってしまいました。その時、私は「退屈な時間は時計の時間では5分しかたっていないのに：私は時、その時間は長く感じていなかったし、どうしてだろうと思っていた。」それは、あなたが書いたこの文章が関わっているのだと、私は気づきました。心の時間は人によって進み方が違うから、あの時は友達がとても退屈に感じただんだと思います。このことから、あなたの文章の、心の時間の進み方は人によって違うから、心の時間を頭に入れて、時計の時間を道具として使うというのは本当だと思いました。	あなたの文を読んで、わたしは「心の時間にも目を向けて、心の時間を頭に入れながら時計の時間を道具として使う」という考えにとっても納得しました。

終わり	中	はじめ
あなたの文を読んで心の時間にも目を向けて、心の時間を頭に入れながら時計の時間を道具として使うということに納得しました。これからはこの心の時間を大切にしていこうと思いました。	自分はこの文章を読んで、納得しました理由は時間が進むのが遅く感じる時と早く感じる時があるからです。好きな教科は終わるのが早く感じる時があるからです。嫌いな教科があると何度も時計を見て時間を気にすることがあるからです。だから人によたら違うかもしれない感じ方も違うので、人によって心の時間が変わるんだなと思いました。自分のペースが合わなかったら、ストレスを感じることがあります。これは、人によっても心の時間は変わるといことがわかりました。	あなたの文を読んで、わたしは「心の時間にも目を向けて、心の時間を頭に入れながら時計の時間を道具として使う」という考えにとっても納得しました。

終わり	中	はじめ
自分はあなたの文を読んで「心の時間は頭に入れた時計の時間は道具として使う」事に納得しました。これからは両方使い分けたいと思います。	自分は文に書いていた通り苦手なことは時間が長く感じて好きなことは時間が、たつのが早く感じます。なので心の時間だと1時間と書いていても本当は2時間なんてことがあるのでどちらも心の時間は頭に入れて時計の時間は道具として使うというのはとても良い考えだなと感じました。ほかにも文にあったように自分は、人によってテンポが変わりそれを守らなかつたりしたらストレスが感じるということがよくあったりしたり、速くしすぎると疲れるということがあったので自分の速度に合っていないと疲れたりストレスが多くなったりするけど、もしお互いに相手のペースを知っていたら一緒に仕事もできるのではないかな？と思いました。	あなたの文を読んで、わたしは「心の時間にも目を向けて、心の時間を頭に入れながら時計の時間を道具として使う」という考えにとっても納得しました。

1 時間のつきたい力を見極め、計画的に工夫して学習を進めることで着実に力をつけることができました。本単元で学習したことを今後の様々な学習に活用していきます。